

2015
1.5

毎週月曜
第5週除く

新春特大号 第 **892** 号

週刊ビル経営

ブライム・スター



代表取締役社長
下田 知代氏

望まれています。そではブルーライトを含むLEDの一方、LEDが直線的に器具内から発せられるブルーライトがヒトの目に影響を及ぼす可能性があることは周知の事実だと思われま。当社では「MCP」は器具内での乱反射を増加させる「Reach」の7Wで点灯するタイプを開発・販売展開を行っています。わずか1年で約665万円もの電気料金を削減でき、投資回収は約半年で達成することになります。

水銀を使用した蛍光灯などの製造・輸出入を禁止する、いわゆる「水俣条約」がされたことで、今後施設照明の主役は完全にLEDに移行することになりました。これは、古河電工が開発した超微細発泡光反射板「MCP」より企業の車輛保有数が増えることで、ランプを置き換えるだけで従来よりも順次LED照明に置き換えていくことが用されるアルミ反射板の動率維持が困難な状況とが可能で。例えば、

このブルーライトによる人体への影響を最小限に留めるべく、特許取得したLED均一にやわらかい光を届けるとともに、ブルーライトの軽減にも効かない消費電力でも駐車場の照明として十分な明るさを確保する。昨今10月の販売開始から多くの反響を頂き、広大な地下駐車場を有する大手不動産会社からもお問い合わせ頂くなど、大きなコストメリットが魅力の当社製品に対し関心の高まりを感じています。

7Wで点灯！駐車場施設の照明コストを約85%削減

ビル1000本の蛍光灯(FL・FLR)を設置している24時間営業の駐車場に当社製品に置き換えた場合、年間の電気料金は788万4000円から122万6400円まで圧縮することができま。わずか1年で約665万円もの電気料金を削減でき、投資回収は約半年で達成することになります。